

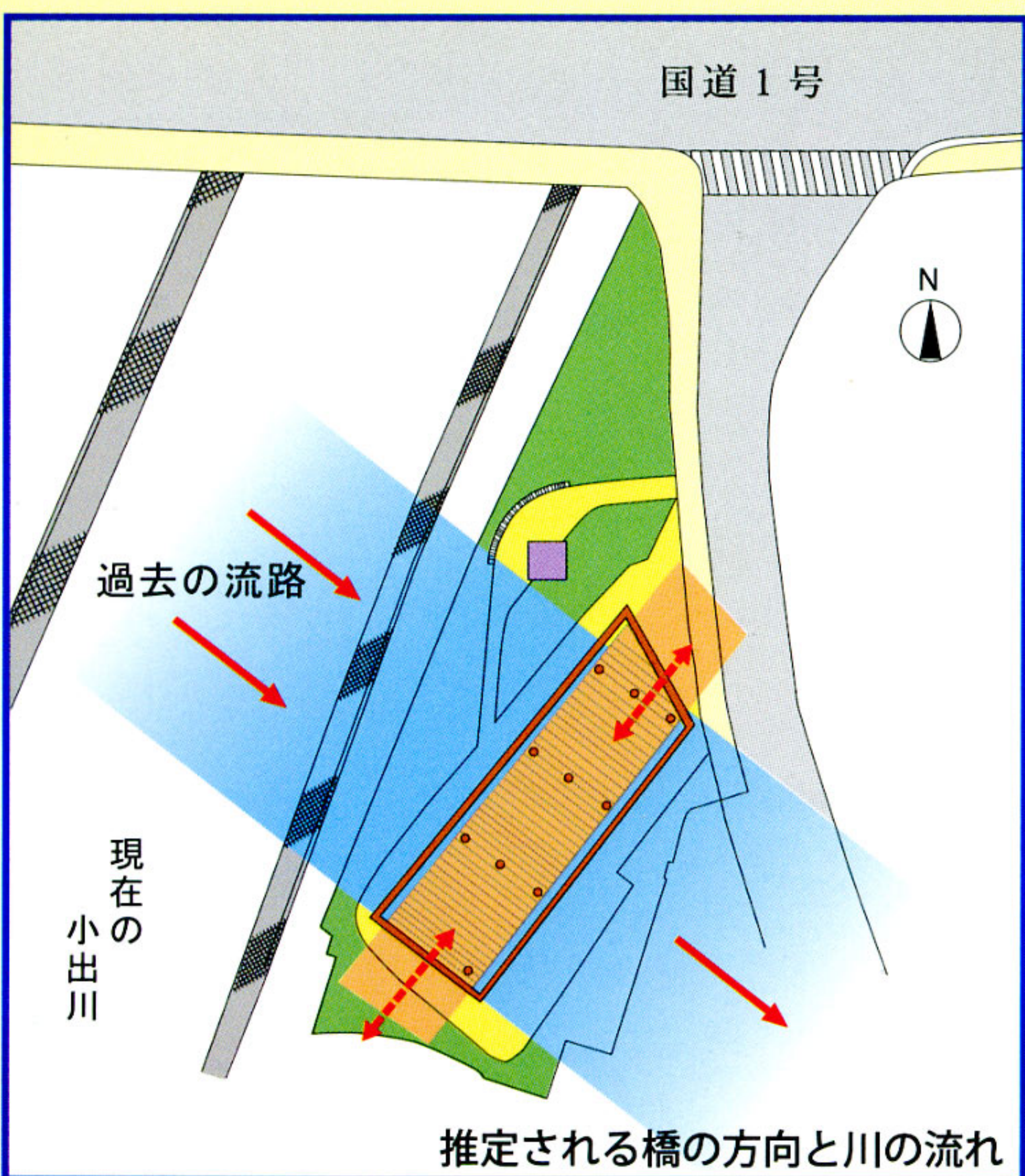
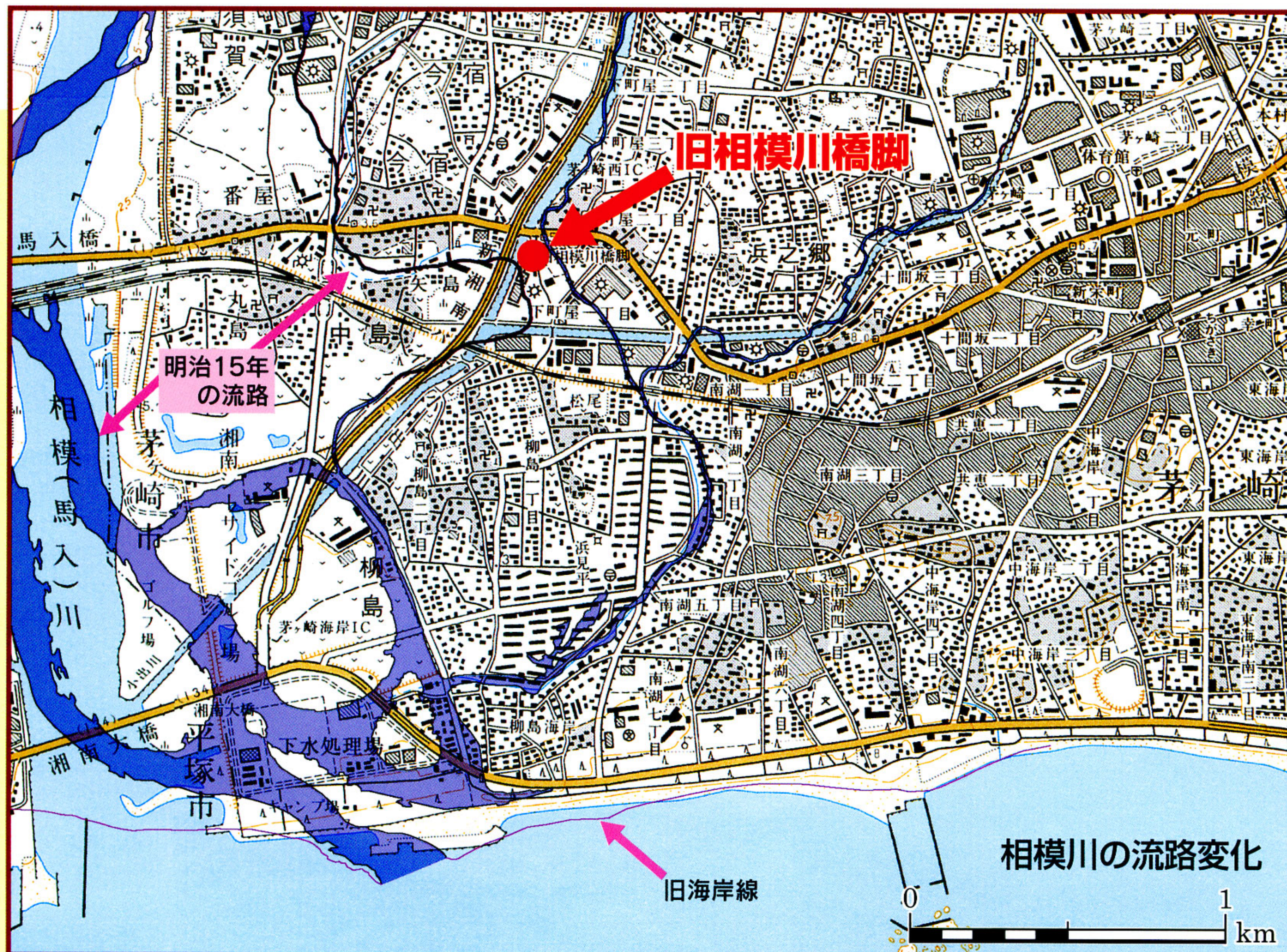
橋の方向と川の流れ

史跡の位置と相模川

現在の相模川は、橋脚の位置（上図の赤丸）から西に約1.5km離れています。

明治15年の地図に示された流路を見ると、河口部は大きく東に曲がり、枝分かれしていることがわかります。周辺に中島や柳島という地名があるのも、この地形を表していると考えられます。

こうしたことから、鎌倉時代の相模川の流路を考えると、現在よりも東側を流れていたことが推測でき、枝分かれした中の1本が本地点を流れていた可能性があります。



橋の方向と川の流れ

出現した橋脚10本の配置から、橋は北東から南西方向に架けられていたと考えられます。したがって、川は北西から南東に流れていたと推測されます。このことは、堆積した砂礫層の観察からも裏付けられています。

橋の大きさ

橋脚10本の配置のうち、東西に並んだ3本が橋の幅方向と考えられると幅員は約8~9mと推定されます。また、橋の長さについては、南側の川岸がどこかははっきりしないものの、約40m以上の立派なものであったと思われます。